

---

# 『Thank you.』

槇野雅文

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

## 【小説タイトル】

Thank you.

〔ZΠ-〕

N 4447 J

【作者名】

檜野雅文

【めりすじ】

彼と彼女の国境を越えた出会い。

My name is Aris Sari.

Please call me Aris.

Nice to meet you.

.....それは、あまりにも突然のことだった。

まだ少し寒さの残るある2月のこと。

午前9時頃、窓際の席はほんのり心地よい。

高3の彼は卒業を3日後に控えていた。

その時突然、教室前方の扉が開いた。

それが彼の人生を変えた。

彼は、英語が嫌いだった。

ある日、英語の授業で彼は疑問を抱いた。

日本人なのに、どうして英語を勉強するのかと。

そして、彼は彼女に出会った。

それは2月27日のことだった。

自己紹介を終えた彼女は、ホッと息をついて彼の隣の席に座った。

彼はリングゴ色の頬の彼女に、心臓が高鳴った。

ゴクリと唾を飲み込むと、彼女に話しかけた。

彼女はそつと微笑んだ。

でも、返答はなかつた……。

彼はうつむいていると、そつと小さな紙切れが机の上に置かれた。

『Thank you. Please know your name.』と書かれていた。

彼は『Thank you.』という単語だけ分かった。

彼は彼女の書いた下に『Thank you.』と付け加えた。

彼女は再び微笑んだ。

彼は何か話したそつとして、そつと前に向き直った。

そしてあつとこつ聞に、卒業式の日がやつてきた……。

彼は泣いた。

英語をろくに勉強しなかつたことに。

彼女は笑顔だった。

彼に出会えたことに。

たつた3日間だったが、それは輝きに満ちた3日間だった。

出会い、別れそれは切つても切り離せないものだ。

そして彼は別れの時を迎えていた。

彼女は『Thank you.』と言い残して歩き始めた。

広い青空に彼の声が響き渡った。

My name is . . . 俺はアリスさん好きだ . . .

あれから、もう20年の月日が経つ。

彼女は日本語をすっかり話せるようになつた。

でも彼は、やっぱり英語が嫌いなようだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4447j/>

---

『Thank you.』

2010年10月10日18時35分発行